

# カラーレが育む 3つの“夢の種”!

「楽器をやりたい」「歌いたい」「演じたい」

心の中の小さな“種”を育みました。

grow&grow!

小さな種がぐんぐん伸びて大きな活動の芽を咲かせています。

これからどんな花が咲くのかな?

未来のアーティストたちの、日頃の練習風景と今後の活動をご覧ください。

クラシック、ポップス、ジャズ! エンジョイ! ミュージック!  
「シンセを弾こう!」**キーボードオーケストラ**

天使の歌声、清冽なハーモニー  
「歌おう!」**ココロ合唱隊**

ミュージカルから社会派ドラマまで  
「演じよう!」**ドラマキッズ**



## カラーレ リトル・カルチャークラブの 公開練習+シンポジウム

2002年 1月27日(日) **入場無料**

黒部市国際文化センターカラーレ(カーターホール)

13:30 開場

14:00 ココロ合唱隊公開練習

14:25 ドラマキッズ公開練習

14:50 キーボードオーケストラ公開練習

15:25 シンポジウム「子どもたちが秘めた無限の可能性を求めて」

コーディネーター:津村 卓(財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー)

パネラー:武藤憲夫(キーボードオーケストラ指導者)

阿部洋司(キーボードオーケストラ指導者)

三井 香(ココロ合唱隊指導者)

木津 修(ドラマキッズ指導者)

コメンテーター:吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主任研究員)

### リトル・カルチャークラブって何?

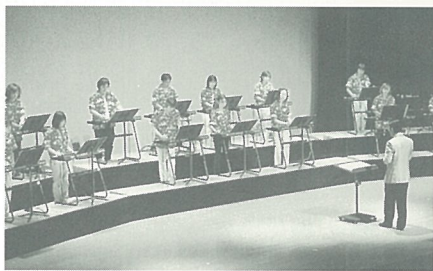
1995年、まだカラーレの建物がその全貌を現さない夏の日に、次世代の文化と芸術を担う子どもたちの豊かな感性と無限の可能性を大切に育む「カラーレ リトル・カルチャークラブ」構想が生まれました。そして同年7月「キーボードオーケストラ」が誕生、その後「ココロ合唱隊」「ドラマキッズ」が続々と産声をあげました。このシンポジウムでは、それぞれの日常の練習風景をかいま見るとともに、これまでの活動を振り返りながら、子どもたちの明日を模索してみたいと思います。

主催/財団法人黒部市国際文化センター

後援/黒部市・黒部市教育委員会

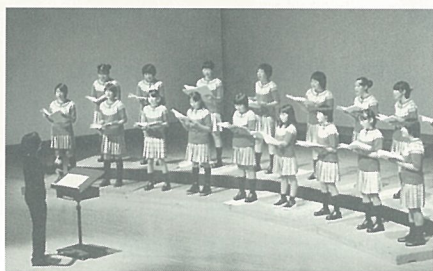
■お問い合わせ/カラーレ TEL. 0765(57)1201

# リトル・カルチャークラブ



## キーボードオーケストラ

1995年7月、コラーレの専属楽団として、市内外の小中学生による全国初のシンセサイザーのオーケストラを結成。子ども達の2グループ「Cグループ」「Kグループ」に加え、1998年7月には高校生、保育士、教諭、ピアノ講師をメンバーとした「Oグループ」が誕生、現在3グループで活動している。KグループとOグループは武藤憲夫氏（富山短期大学助教授）、Cグループは阿部洋司氏（YKK AP株式会社）と酒井明美氏（舞・美夢自來主宰）が指導にあっている。毎年8月に定期コンサートを開催しているほか、市内の主要なイベントに招待され客演している。1998年3月には、黒部市と姉妹都市提携している、米ジョージア州メーコン市の桜祭りに招待され、海外演奏も経験した。



## ココロ合唱隊

1996年11月、コラーレの専属合唱隊として結成、「心を込めて、聴く人の心まで届くように」との想いを込めて『ココロ合唱隊』と命名。小学校4年生から中学校3年生までの子ども達が、三井香氏（武蔵野音楽大学声楽科卒）の指導を受けて育てている。無理のない発声法による練習を基本にしなが、合唱を通して感性や表現力の向上を目指している。童謡からベートーヴェンまで、そのレパートリーは幅広い。日々の練習の中で、歌うことの楽しさ、協力して曲を創り上げていくことの素晴らしさを身体全体で体験している。毎年秋に定期コンサートを開催する一方、さまざまなイベントにゲストとして出演している。



## ドラマキッズ

1998年4月、コラーレの専属演劇集団として小中学生で結成。演劇活動を通して子ども達の感性や表現力の向上を目的とし、表現することの楽しさ、協力して舞台をつくることのすばらしさを体験する機会を提供している。木津修氏（劇団鷗座主宰）と木津智子氏（女優）が指導にあっている。月に3~4回の練習、年に1度定期公演を開催しており、これまでに賛助出演を含め大きなステージを4回踏んでいる。2001年8月には中学生メンバーによる特別公演も実現、社会派ドラマに初挑戦ながら迫真の演技に満場の喝采を浴び、今後の活躍がさらに期待される。

## コラーレが育む3つの“夢の種”!



### コーディネーター 津村 卓

大阪府出身。情報誌の企画や大阪ガス運営の「扇町ミュージアムスクエア」企画プロデューサー担当後、87年より兵庫県伊丹市の演劇ホール(AI HALL)のチーフプロデューサーなどを経て、95年より財団法人地域創造芸術環境部プロデューサーに就任。97年より滋賀県立びわ湖ホール演劇部門、99年より北九州芸術劇場の開館（2003年開館予定）に関わっている。



### コメンテーター 吉本 光宏

徳島県出身。早稲田大学大学院修了（都市計画）後、黒川玲建築設計事務所、社会工学研究所を経て89年より現職。東京オペラシティや世田谷パブリックシアターの開発、東京国際フォーラムアートワーク整備事業などに携わる一方で、文化政策や公共ホールの運営、アートマネジメントなどの幅広い調査研究に取り組む。97年セゾン文化財団の助成により、NYコロンビア大学に留学。現在ニッセイ基礎研究所主任研究員。

### シンポジウム

## 子どもたちが秘めた無限の可能性を求めて



### パネラー 武藤 憲夫

黒部市出身。武蔵野音楽大学ピアノ科を卒業。東京芸術劇場、サントリーホール、すみだトリフォニーホールなど県外でもピアノ演奏活動を行うかたわら、県ピアノ指導者協会理事長、県合唱連盟事務局長などをつとめ、県内の音楽教育を推し進めてきた。富山短期大学助教授、武藤音楽教室主宰。



### パネラー 阿部 洋司

北海道出身。高校時代より岐阜を中心にバンド活動を開始。87年、YKK入社を機に黒部市に移り、92年よりバンド活動を再開。現在「The AB☆E Band」でキーボードとバンドマスターを担当する一方、県内で活動するアマチュアバンドの交流にも力を入れている。YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社勤務。



### パネラー 三井 香

福島県出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業。郡山ザベリオ学園中等部教員、黒部市立高志野中学校音楽講師等を経て、現在は「黒部で第九を歌う会」事務局(合唱指導)、「大地の会」(内山太一主宰)会員。「せせらぎハウス黒部リラクゼーション教室」講師。



### パネラー 木津 修

東京都出身。東放学園放送タレント科在学中、劇団阿香車付属ススキダ演技研究所に入所。その後、東京アナウンス学院の放送・演技・声優科講師となる。現在、劇団鷗座代表として脚本・演出・出演するほか、番組の司会、声優としても活動するかたわら、全国の高校演劇部の講習会講師や大会審査員なども務める。